

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.836 2024

2024年5月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



盛岡YMCA 野外活動クラブ「ちきゅうとあそぼう」

OPINION

『YMCAと人権』

～地域から、そして子どもたちからの発信～

盛岡YMCA 理事長 魚住 英昭

1948年12月に世界人権宣言が採択されて以降、世界各国は、人種やジェンダー、子ども、少数民族、移住労働者など、さまざまな領域における差別撤廃や人権擁護に取り組んできました。しかし、一昨年以来、終息の兆しが見えないロシア・ウクライナ戦争、イスラエルとハマスの戦闘を端緒とするパレスチナ・ガザ地区の深刻な人道状況は、20世紀前半にタイムスリップしたかのような錯覚を覚えるほど、歴史の進歩への期待を打ち砕くものとなりました。

一方、国内を見渡すと、ジャニーズや自衛隊における性暴力や宝塚歌劇団におけるいじめ、名古屋出入国在留管理局におけるスリランカ女性の死亡事件など深刻な人権侵害事件が後を絶たず、我が国の人権後進国ぶりをさらけ出しています。

世界各地の紛争や市民の抑圧に対しても、SNSが介在した現代特有の差別やいじめに対しても、心ある多くの人々が無力感や焦燥感を感じているのではないのでしょうか。



盛岡YMCAでは、ここ数年、スタッフや学生リーダーが、学童保育やスポーツ・キャンプ等のプログラムに集う子どもたちとともに人権の問題に取り組んできました。カナダのハイスクールに起源を持つ「ピンクシャッター」への参加や教育研究者・山崎聡一郎氏の著書「こども六法」にヒントを得た「前潟六法」の作成（注：前潟は、子どもたちの拠点である学童クラブの名称）、岩手弁護士会子どもの権利委員会とのコラボによる「人権かるた」の制作などです。いずれも、いじめの問題に焦点を当てたものです。昨年12月の人権週間には、盛岡人権擁護委員協議会が主催する『人権の広場』にも協賛し、これらの活動の一端を展示しました。

我が国の人権教育や人権啓発は、伝統的な修身・道徳教育の枠組みの中に位置づけられることが多く、子どもや女性、性的少数者を権利の主体として尊重し、権利の担い手として積極的に発言・行動することを促す主権者教育の側面が薄かったと言われていました。盛岡YMCAが運営する学童クラブやスポーツ教室、キャンプ等のプログラムにおいては、スタッフや学生ボランティアリーダーも子どもたちからニックネームで呼ばれ、愛着と信頼を得ています。一定の世代間境界を保ちつつも、学校教育場面における教員・生徒のタテの関係とは異なる開放的な空間の中で子どもたちと接しています。このような空間においても、子ども同士の対立やいじめなどの問題は発生しますが、盛岡YMCAでは、子どもたちとともにそのような日常と向き合い、子どもたちと課題を共有することを大切にしています。すなわち、子どもたちを単に保護の対象とするのではなく、子どもたちが種々のプログラムを通じて、自らが権利の主体であり、人権擁護の担い手として成長することを目指しているのです。

当然のことながら、スタッフや学生リーダー等、子どもに関わる大人たちにも思考停止に陥ることなく、常に自らの人権感覚を振り返り、アップデートし続ける大人として自己研鑽することが求められます。

盛岡YMCAは、地方都市の小規模なNPO法人ですが、子どもたちとともに人権やSDGsの諸価値を大切に、担える市民団体でありたいと願っています。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

能登半島地震 「1.5次避難所」のアドバイザー役として

YMCAは1月以来、輪島市と金沢市の避難所で支援活動を行っています。金沢市内の「1.5次避難所」で、計55日間にわたり支援にあたった元神戸YMCA職員の松田康之さんに報告を聞きました。



私は阪神・淡路大震災以来いくつかの避難所支援に携わりましたが、今回の「1.5次避難所」はこれまでとは少し異なっていました。「1.5次」とは、介護や支援の必要な高齢者や障がい者、また幼い子どものいるご家族が2次避難所に移るまでの中継地として、石川県が初めて設置したものです。若い世帯はすぐに2次避難所へ移られることも多く、「1.5次」の入所者の9割が高齢者となりました。

要介護者を受け入れられる施設は県内に空きが少なく、しかし「遠くには行きたくない」という方も多く、滞在は長期化。3月末時点でも140名が生活されています。1次避難所と違い、同郷の人たちが身を寄せ合って暮らす場ではなく、多様な市町村から来られるため知り合いが少ないという点も特徴的でした。

支援のためにDMATや看護協会、保健師チーム、介護チーム、ケアマネ協会など約20団体が全国から支援スタッフを派遣して活動していました。その支援者も数日単位で入れ替わります。初めて会った支援者同士をつなぎ、協力関係を築くこと。それがアドバイザーとしてのYMCAの役割の一つでした。

避難所という非日常の場に多数の方が集まるため、意見調整も容易ではありません。豊富な支援経験は役立ちますが、時にそれが混乱を招くこともあります。職種や意見の違いを越えて連携し、各自の能力を最大限に発揮できるようにすること。アドバイザーとして上から指示するのではなく、一人ひとりの声を丁寧に聞き、日々変化する課題と一緒に取り組んでいく。ここではYMCAのキャンプなどで培った経験が活かしました。

YMCAは災害救援の専門団体ではありませんが、一人ひとりの尊厳を大切にエンパワーしていく考え方は、1.5次避難所という場でも役に立ったと感じています。

運営体制が落ち着いた3月末でYMCAはその役を石川県に引継ぎ、4月からは輪島市の避難所支援に注力しています。復興には時間がかかりますが、今後も私たちはその長い道りに寄り添ってまいります。(元神戸YMCA職員 松田 康之)



支援の近況はホームページで >>> https://www.ymcajapan.org/noto_sien/

地域課題に向き合うユースを助成 Y's×SDGs Youth Action2024

持続可能な開発目標 (SDGs) に取り組むユースのグループを、最大20万円の助成金等によってサポートする「Y's×SDGs Youth Action」。YMCAとワイズメンズクラブによって2022年に始められたこのプロジェクトは、今年2回目の助成を行うために3月17日、オンラインによるグループ選考会を行いました。応募した12組のユースたちはそれぞれ7分ずつ、企画の主旨や計画詳細を発表。選考委員による審査を経て、下記の10グループが助成対象に選ばれました。

選考にあたった十勝ワイズメンズクラブの山下真さんは「若い学生たちの熱意ある企画に、聴いている私たちもワクワクした。計画以上の成果が発揮できるよう応援したい」と語っています。各グループはすでに計画に沿って活動をスタートしており、来年には報告会を開催の予定です。

2024年のチーム名と企画名

- 1 YMCAクローバークラブ川越 / 「小さなアトリエプロジェクト」
- 2 札幌YMCAユースボランティアリーダー会 / 「グッドドライブ」
- 3 Youth for Noto (長野県) / 「留学生もみんなと共に」
- 4 YMCAせとうちリーダー会 / 「落書き消去プロジェクト」
- 5 盛岡YMCA子どもの人権チーム / 「子どもの人権プロジェクト」
- 6 みっくす! (東京YMCA) / 「外国ルーツの子どもたちの体験プロジェクト」
- 7 熊本YMCAぷらっとほーむリーダー会 / 「ぷらっと"Canp"」
- 8 山梨YMCAユースリーダー会 / 「ユースが発見! みんなでつくるよりどころ」
- 9 ボランティアサークルひつじぐも (中央大学YMCA) / 「絆を紡ぎ続ける、居場所を目指して」
- 10 広島YMCA国際ユースリーダー / 「Youth Peace Seminar」

▼詳細はこちら

<https://sites.google.com/japanymca.org/youth-action2022/>



ウクライナから日本へ

避難者からのメッセージ ユリア・ベルナツカさん(東京都在住)

戦禍を逃れたウクライナ人を温かく受け入れ、住宅や生活費の支援、そして精神的なサポートを提供し続けてくださる東京都やYMCAに心から感謝します。これらのおかげで、多くのウクライナ人が安心し、ストレスに対処し、日本語を学びながら少しずつ仕事も得て働き始めています。戦争開始から3年目、避難生活が長期化する一方、支援策は少しずつ減っています。私たちは「将来的には経済的に自立し、安定した生活を送ることができる」という希望を持って努力を続けています。



一方で、避難者には高齢者や慢性疾患のある人、そもそも本国でも仕事の経験がない若い人たちもいます。日本語を学ぶのは容易ではなく、経済的安定のためにフルタイムで働く体力やスキルも十分ではありません。彼らの多くは、将来への不安を抱え、家から出ずに人付き合いも少ない状態です。

これらの最も脆弱な人びとへの支援の継続を検討くださるようお願いいたします。継続的な伴走支援によって、誰もが明日を恐れることなく精一杯生きるチャンスを得ることができればと思います。

「全国YMCAこどもラジオ」スタート 学童クラブの子どもたちが番組をとおして交流

「今日は、東広島YMCAで流行っている遊びを紹介します！」

YMCAの学童クラブに通う子どもたちが、自分たちのクラブ紹介をラジオ番組風に制作し、春休みの各地の学童クラブで放送されました。

この番組は、全国YMCAが運営する学童クラブ同士の交流促進を目的に、「全国YMCAアフタースクール事業部」の提案によって今年初めて行われたもの。現在YMCAは北海道から沖縄まで90カ所で学童クラブや児童館を運営し、約7000人の子どもたちが通っていますが、日ごろは交流の機会がありません。そのため同事業部はこれまで、オンラインの「こども会議」を開催するなどして全国の仲間とつながる機会を設けてきましたが、今年はよりじっくりとした交流関係を築きたいと「ラジオ番組」に着目。子どもたち自身がクラブ紹介の番組を制作し、それを各地のクラブで視聴し合うという新たな試みが行われました。

番組は、企画内容から司会進行まですべて子どもたちが制作。「茨城YMCAはどここの都市にあるでしょうか？」といったクイズ形式や、「皆が好きな遊びを聞いてみましょう」といったインタビュー企画など、子どもらしいアイデア満載の番組で、制作側もリスナー側も共に楽しい時間を過ごしました。

